



①

NPO法人「エデュケーションエーキューブ」は福岡市西区で小中学生を対象に週1〜3回、パソコンを使ったIT教材「e-learning」(イー・ラーニング)を活用し、低料金の個別指導学習塾を運営しています。

IT教材を使うだけでなく、ひとり親世帯の子どもには、授業料の減免や家庭用パソコンの無償貸与などの制度を設けているのが特徴。

背景には、代表の草場勇一さん(45)の強い思いがあります。

草場さんは西南学院大卒業

エデュケーションエーキューブ

事務所＝福岡市西区▽連絡先＝070(5495)2695、info@education-a3.net

教育全ての子どもに

後、東京でベンチャー企業の投資と支援を行う金融業界で働いていました。いわゆるエリートビジネスマンでしたが、東日本大震災を機に福岡へ戻りNPOで起業しました。

後、東京でベンチャー企業の投資と支援を行う金融業界で働いていました。いわゆるエリートビジネスマンでしたが、東日本大震災を機に福岡へ戻りNPOで起業しました。

後、東京でベンチャー企業の投資と支援を行う金融業界で働いていました。いわゆるエリートビジネスマンでしたが、東日本大震災を機に福岡へ戻りNPOで起業しました。

た。

その大きな決断には、自身もひとり親家庭に育ち、奨学金などを活用し、努力して学び成長してきたという背景。そして同じような境遇にいる子どもたちへ、なるべく多くの教育の機会を提供したいという思いがあるそうです。

日本では、親の経済力と子どもの学力には高い相関関係があります。世帯収入が多い家庭の方が塾や家庭教師、通信教育など学校外の教育により多くお金をかけられるため

功物語にも、背景には、高額な塾代を払える経済力、子どもを信じずとサポートし続けた母親の愛情と時間的余裕など、家庭側の事情が大きかったとも言われています。

草場さんは、子どもの貧困や貧困の連鎖という社会課題に対し、「かわいそうだから助ける」という同情ではなく、「少子化が進む現代の日本で、次の社会を担う人材育成のために欠かせない社会投資」だと位置付けて臨

原則毎週月曜掲載

んでいます。その志に共感し、企業経営者を中心に6人がNPO法人の役員となっていてます。

ただ、職員は草場さんだけが、今後の事業展開の鍵になるのかもしれない。

(仮認定NPO法人「アカツキ」代表理事・永田賢介)



エデュケーションエーキューブが運営する学習塾で生徒を指導する代表の草場勇一さん